

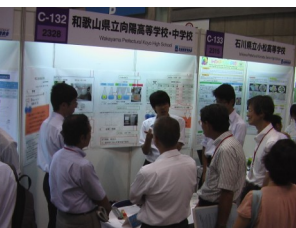
向陽 SSH NEWS 第7号



編集：向陽高校SSH事務局

平成25年度 全国SSH生徒研究発表会に参加 ポスターセッション発表「梅仁油の抽出法と性質」

8月7～8日にパシフィコ横浜で平成25年度SSH生徒研究発表会行われました。本校からは環境科学科3年の5名が参加し、昨年度にSS探究科学Ⅱの授業内で取り組んだ研究「梅仁油の抽出法と性質」のポスター発表を行いました。研究発表内容は、廃棄物として捨てられる梅の種に含まれる仁から油を抽出し活用する方法を探る化学分野の研究でした。ポスターブースでの研究発表中は、多数の他校生徒、教員の方々が本発表に熱心に耳を傾け、質問だけでなく、アドバイスもかけてくださいました。なかには、海外の学生も質問に訪れ、生徒達は緊張しながら英語で質疑応答に答えていました。



また、今年度はアピールタイムにも積極的に参加し、プレゼンブースにおいて口頭発表も行いました。そのほか、東京女子医科大学副学長であり、先端生命医科学研究所の所長もされている岡野光夫教授の講演「細胞・組織で治療する再生医療テクノロジー」があり、iPS細胞をはじめとする再生医療において発展する科学技術や新たな再生医療のシステムモデルの提案などの貴重なお話を聞くことができました。また、海外からも招聘校の参加があり、英語でポスター発表等が行われました。参加した生徒たちは、自分の研究のポスター発表だけでなく、他のブースもまわり、他校の生徒達と交流を深めました。



アピールタイムでのプレゼン風景

8月29日 普通科2年生理系 SSH第3回研究室訪問（近畿大学生物理工学部）



8月29日（水）の午後、普通科（理系）2年生が近畿大学生物理工学部を訪問しました。

全体会として生物理工学部の学部の理念や6学科（生物工学科・遺伝子工学科・食品安全工学科・システム生命科学科・人間工学科・医用工学科）の概要、特徴について説明していただきました。その後、6班に分かれて、それぞれの班が選択をした2学科にわたって研究室を見学しました。

研究室の見学では、実験の圃場でのイネを使った遺伝子研究の見学や体を補助する機器の開発について、先端の実験器具を使った模擬実験、食品安全のための研究など、大学での研究内容や使用する実験機器について分かりやすく教えていただきました。

参加生徒の感想より



「夏休み中にいくつかのオープンキャンパスに行ったが、研究をこんなにじっくり見せてもらったのは初めてだったので、とても良い経験でした。」「1つのことについて詳しく研究していて、すごいと感じました。丁寧に研究内容を教えていただきすごく分かりやすかったです。はやくこのように自分が決めた学問を究めたいと思いました。」
「大学での実験を実際にはじめて経験させてもらって良い経験になりました。」
「この研修で学んだことは高校で習っていることの延長であるので、いまのうちに興味のある分野を探ることが大事だと思いました。」



見学させていただいた研究室の先生方

生物工学科【堀端章 先生】

人間工学科【北山一郎 先生】

遺伝子工学科【宮本裕史 先生】

医用工学科【楠正暢 先生】

食品安全工学科【泉秀実 先生】

システム生命科学科【中迫昇 先生】